

**【NEWS RELEASE】**

2021年12月30日

各 位

株式会社三井住友銀行

東京ケータリング株式会社に「SDG s 推進融資」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、東京ケータリング株式会社（代表取締役社長：鈴木 隆文）に「SDG s 推進融資」を実施いたしました。

「SDG s 推進融資」は、融資実行時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業のSDG s（※）に関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDG s 貢献への道すじ（ロジック）を分析し、SDG s の取組推進に向けたアドバイス等をご提供する融資商品です。

今回対象となりました、東京ケータリング株式会社については、以下に記す事業を通じて、SDG s の目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

- ① 「TABLE FOR TWO」プログラムへの参加を通じた途上国への給食支援と、認証コーヒーの取扱を通じたコーヒー豆産地の環境保全への貢献

目標 2 飢餓を ゼロに	2.1 2030 年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層および幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。
	2.4 2030 年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水およびその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱（レジリエント）な農業を実践する。

- ② 食事提供時の容器選択による環境負荷低減や、食材の調達管理の工夫や食育等を通じた食品廃棄物削減の取組

目標 12 つくる責任 つかう責任	12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用および再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
	12.3 2030 年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人あたりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。

12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発および自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになる。

三井住友銀行では、「SDGs推進融資」により、本業を通じ、SDGsが達成される社会の実現に貢献をしております。



「TFT支援参加」  
TFTメニューをご注文いただくと1食につき20円が発展途上国へ寄付され、開発途上国の1食分の給食となります。  
弊社内多数の事業所にて参加、NPO法人TFTより、感謝状をいただいております。

「エコ商材の拡大」  
ごみを減らし、環境に配慮するため、洗浄食器での提供が難しいものについては、リサイクルが可能なPET容器へ、リサイクルが難しいものに関しては環境にやさしい素材のものを使用しております。

「エコロジー洗剤の導入」  
環境にやさしく、省資源でゴミの発生量の少ない包装になっており、アルカリフリー、排水の中性化等、環境にやさしい洗剤の使用に努めます。  
梱包もコンパクトに済むため、輸送時のCO2削減にもなります。

<ご参考>

※ SDGsとは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことで

以上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。